

よい会社をつくろう よい経営者になろう よい経営環境をつくろう

月刊 同友

やまがた

10

October
2018

山形県中小企業家同友会

山形県中小企業家同友会・経営指針委員会

経営指針をつくる会



よい会社 よい経営者 よい経営環境をめざす
中小企業経営者の全国組織

2018年度スローガン

「人を生かす経営」の総合実践で
地域と日本経済の発展に貢献しよう

これから本番！ 経営指針の実践で輝く企業をつくろう



8月25日、「第23期経営指針をつくる会」の発表会が、ホテルシンフォニーに於いて開かれ、5名の受講生と20名の修了生が参加しました。第23期経営指針をつくる会は3月3日に開講し、5回の講座が開かれ、受講生同士励まし合いながら経営指針書の完成をめざしてきました。

冒頭、挨拶に立った小川大輔経営指針委員長は、経営指針をつくる会の目的

- ①企業の継続・発展と同友会理念を結びつけ、両者を車の両輪とした「経営指針」の成文化と全社実践を目的とします。
- ②受講生と助言者・修了生同志が連帯し、経営者として成長し、成文化運動を広め、同友会運動の新たな担い手となります。
- ③強い体質の企業づくりを地域に発信し、雇用を守り、人づくりをすすめ、同友会理念を広げ、地域の活性化に寄与します。

に改めて触れた後、「これから山形県を支える中小企業の一員になっていただきたい。今日、第23期経営指針をつくる会は修了を迎えますが、これから皆さんの実践への学びが始まります。例会・全県行事・全国行事に参加して一緒に成長していきましょう」と述べました。

続いて受講生が、自分と会社と向き合っ作り上げた経営指針書を発表しました。作成の過程では、社会・経済環境が大きく変化する時代にあって10年ビジョンが描けず、不安を感じることもありました。

受講生は「何のための経営なのか」「社員をどうとらえるのか」「どういう会社をつくりたいのか」「何を売る会社なのか」と、様々な角度からの問いかけから自問自答を繰り返し、自社の進むべき道を見出してきました。

発表後、小川委員長より修了書が授与されると、会場は拍手に包まれました。

最後に菅原茂秋代表理事が「私も10年前に受講しました。経営のあり方について、ここまで真剣に考えるのはこういう機会がないとなかなかできない。同友会ならではの、利害関係のない修了生の方々からの意見に、なぜこんなことを言われるのかという思いもあったと思います。私もあの時の助言で数年後に気づけたこともあります。多面的なものの見方を学べる場です。人口減少が進む中で廃業率が高くなっています。深刻な地方経済の中で、雇用を維持し支え、新たな価値ある仕事を生み出していく持続可能な社会づくりは同友会運動の最たる取り組みです。地域がなくなれば仕事がなくなります。共に同志として価値あるものを生み出す企業になって、未来に向けて歩んでいきましょう」と締めくくりました。



「中小企業・小規模事業者人手不足対応ガイドライン」活用セミナーで 人材確保・定着のための未来ストーリーを考え合う



8月27日、「中小企業・小規模事業者人手不足対応ガイドライン」活用セミナーが、山形県産業創造支援センターで開催されました。このセミナーは経済産業省・東北経済産業局「平成30年度東北地域中小企業・小規模事業者人材確保・定着等支援事業」として開かれ、同友会の会員企業に加え、昨年この事業に参加した県内企業の方々、金融機関、山形大学からも参加し、47名が集いました。

佐藤啓共同求人委員長の開会挨拶後、東北経済産業局地域経済部産業支援課産業人材政策室・室長補佐嶋田辰也氏が、どこに行っても人手不足と言われている今、中小企業庁では人手不足対応ガイドライン、人手不足対応事例集を発行するなど、人手不足で困っている企業に対する支援事業を行っていることを紹介しました。

講演では山形県よらず支援拠点・サブチーフコーディネーター 大串康喜氏が、中小企業・小規模事業者人手不足対応ガイドラインの概要について説明しました。

大串氏は、離職率が高いため人手不足になっている状況では、新しい人を探しても時間がかかるので今いる従業員を離さない取り組みが必要。また、復職女性、高齢者は中小企業を選択する傾向にあること、留学生が日本で就職する際には100名以下の規模の企業で働いている方が多いというデータから多様性を提起しました。その上で、女性の視点を入れた商品開発、プロジェクトなどのチームに若い方も入れるなどの事例から、「多様化はプロダクトイノベーション・プロセスイノベーション・外的評価向上の効果があり、職場内のモチベーションアップによる社員が定着する風土づくりにつながっていく」と語りました。

そして、「ピンチをチャンスに変える機会として捉え、職場環境の整備を進めることや、ITや設備の導入、人材育成

などによる生産性の向上で、頑張っていたきたい」と述べ、重要な視点として「1経営課題や業務を見つめ直す」「2求人像や生産性を見つめ直す」「3働き手の目線で人材募集や職場環境を見つめ直す」という三つのステップをあげ、100を超える事例を参考にすること、よらず支援拠点の人材不足対応アドバイザーを活用して、「採用を増やす」「生産性をあげる」を組み合わせる取り組みを紹介しました。

続いて、「企業の人手不足に対応するには？」をテーマに、SDGsの手法を活用し、自社の魅力を高めつつ発信する「未来ストーリー」を考えるワークショップが、一般社団法人イマココラボ能登俊幸氏と榎田綾子氏を講師に迎え、行われました。

SDGsとは、国連加盟国が2030年末の達成をめざす持続可能な開発のための17のグローバル目標と達成するための169のターゲット、それらをはかる232の指標からなる国連の開発目標です。概要を説明した後、SDGsがなぜ生まれたのか、世界が合意したことでどんな可能性が生まれたのかについて、ゲームを通して体感しました。

振り返りでは、パーム油が世界的に消費拡大し、農園を増やすために森林を伐採し地球温暖化に影響を及ぼしていること、安い家電が児童労働につながっていることを例に解説し、「世界はつながっている。全体を意識して行動する『私も起点』ということがSDGsの本質の一つ。体感したゲームのように世界が目指す目標が見える化し、共有することで行動が変わってくる」と語りました。

そして、最も成功している生産性の高いチームの特性として、「信頼性(期限と品質を守る)」「構造と透明性(役割・目標・情報の透明性)」「意味(個人的な意義を感じる)」「影響(自分たちが社会全体の利益に貢献している)」「心理的安全性(聴いてもらえる→さらけ出せる)」をあげ、働く周辺に起きている多様化の波については、「働き方の制度設計に加え、事業の本質的な魅力が問われる時代」と語りました。



同友会で学んで会社と自分がどう変わったか語れる役員になろう



2018年度役員研修会が、「同友会運動と企業経営を不離一体のものとして、発展できる力を養う」ことをねらいとしてスタートしました。山形同友会の運動を継承するため、体系的な学びで役員の育成が必要なことから、今年度は「北海道東北ブロック支部長・地区長交流会」を第2講に組み入れ、3回シリーズで開催することになりました。

8月28日に山形テルサで開かれた第1講には32名が参加。

西塔秀幸代表理事の「今、同友会の立ち位置が変わったと言われています。期待されて、行政や銀行などいろいろなところから声がかかります。期待に応えられる同友会・企業になるために学び合いましょう」との挨拶で始まりました。

第1講では、エイベックス(株) 代表取締役会長 加藤明彦氏(中同協副会長・愛知同友会会長)が、「労使見解を学び、人を生かす経営をめざそう～ベクトルを合わせて、全社一丸体制～」をテーマに講義しました。



はじめに加藤氏は、「5年前から会員が増えましたか。過去の延長線上に目標設定していないか」と投げかけました。会勢は会社に置き換えると売上にあたり、同友会と会社を分けて考えていないか。それでは同友会と経営が不離一体とはいえないと指摘しました。

そして、同友会に参加して学んだことを同友会の言葉で語るだけで満足する「気づきマニア」になっていないかと、問いかけました。気づいたことを会社に持ち帰って実践す

る。今度はうまくいかなかった事を会に持ち帰って報告し、討論することによって、また新たな気づきを得ることができる。気づきの行動で会社はどう変わったのか。学んで何が変化したのかが大切と強調しました。

さらに、人手不足というが、人が辞めるからなのか、業績が伸びて人が足りないのかでは、全く原因が違い、取り組むべき課題が違います。表面的にとらえず、根本の原因を追究し、経営課題を明らかにすることが大事。ただ支部例会では、すべての経営課題を解決できません。支部例会は真の経営課題を掘む場で、その解決に向けて取り組むのが委員会活動とし、そういう活動になっているかと問題提起しました。

その上で、自らが「労使見解」を学び一つひとつ実践し、体質の強い企業づくりを進めてきたことで、リーマンショック時の経営危機に社員達が自分達で考えて新規開拓を行い黒字体質への早期転換を果たした経営体験を報告しました。

引き続き行われたグループ討論では、「労使見解を実践し、体質の強い企業づくりに取り組んでいますか。役員企業として、自社内でどう実践し、会内で活動していきますか」をテーマに意見が交わされました。

参加者からは「今まで薄かった情勢認識について社員と情報共有をする」「個人面談の時間をしっかりと確保し意見を吸い上げる」「市場創造に向けての目的と戦略を再考する」「企業が見える支部づくりをめざして企業訪問を行い、真の仲間づくりをめざしたい」「自ら真の経営課題に取り組み、それを報告し、仲間を増やしたい」といった明日からの取り組みが挙げられました。

まとめに立った小川座長は、「同友会に入会して、どう会社が変わって発展していったのか。経営者としてどう変化し成長したのかを、自分の生き様として語り、勤めた時に入会してもらえよう役員になりましょう」と述べ、語り部になることを誓いました。



企業訪問

企業・街・若者が共に育つ ～山形ビエンナーレを通じて～

(有)長門屋 (山形支部)



山形市で仏壇・仏具販売等の事業を展開し、「お城の店」で知られる(有)長門屋(笹林陽子代表取締役・山形支部会員)の敷地には、三つの蔵があるのをご存知でしょうか。今年9月、東北芸術工科大学主催のアートイベント「山形ビエンナーレ2018」でその蔵のうち二つが会場として提供されています。

笹林氏から、ここにかける思い、取り組みの成果をお聞きました。

二つの蔵で映画上映

2年に一回開催されている「山形ビエンナーレ」は、2014年の第1回以来3回目。今回は、大学エリアと文翔館周辺の中心市街地エリアで開催されています。

今回、以前芸工大の卒業生が企画する「花育ワークショップ」の会場として同社が蔵を貸し出した縁もあり、主催者側から「蔵の一つ(ひなた蔵)を映像作品上映の会場としたい」との打診がありました。笹林氏には、これまでの「山形ビエンナーレ」が街並みのイメージに新たな



風を吹き込んできたという実感がありました。また、作品の中で「出羽三山信仰」「羽黒山の火祭り」「朝日町での蜜蝋ろうそくづくり」といった「山形における人間活動」ともいべき内容がテーマとされていることが、自社の「いのちのつながりを想う」「地域の魅力に貢献する」という理念と通じるところがあると感じ、話を受けることとなりました。

二つ目の蔵(塗蔵)もリノベーションを進める中で、主催者側の提案により会場として利用することが決定。二つのお蔵で計3本の映像作品が上映されることとなりました。

アートイベントで起こった変化

開催日は毎週金・土・日・祝日の計13日間。開催日の様子について笹林氏は「商店街を観光で歩く方は普段そんなに多くありませんが、開催日は学生やアート好きの方など、様々な人で街がにぎわいます」と語ります。なんと約300名も来場された日もあるということです。

同社としても、普段はあまり若者との接点がない仏具店が、地域の学生に知られる良い機会となりました。芸術監督の荒井良二氏のイラスト入りオリジナルろうそくの販売も行い、顧客になりづらい年齢層へもアピールができました。また、来場者から「昔長門屋さんに珠数を直してもらったんだよ」「うちのお仏壇は長門屋さんのだ」といった声も聞こえました。長い歴史の中で見落とされていた、これまでの人の縁を再発見することとなったのです。「通常の店舗販売やワークショップといった事業でも見つからなかった、古い縁に再会できた」と笹林氏は語ります。

街・若者と共に育つ

笹林氏は「今回『山形の人間活動』を取り上げた作品に協力でき、自社の想いと重なる部分もあった。こういった取り組みで自社、街、学生が共に育っていき、観光の方だけでなく、地元山形の人々にとっても山形の魅力を再発見する一助になればうれしい」と、本イベントを通じての想いを述べられていました。



第15回経営研究集会 五輪明けにくるケタ違いの時代。あなたの未来の選択は？

2018年 **11月27日** (火) 13時30分
～20時00分

会場 ホテルメトロポリタン山形
山形市香澄町1丁目1-1 ☎023-628-1111

第1部 基調講演 13:30～15:20
第2部 分科会グループ討論 15:30～18:15
第3部 懇親会 18:30～20:00

参加費
第1部・第2部 (基調講演・分科会・グループ討論) **2,000円**
第3部 (懇親会) **6,000円**



第15回経営研究集会
実行委員長
松岡 友路

私たちを取り巻く経営環境は、世界の大きな流れの中に埋もれながら日々目まぐるしく変化しています。2020年の東京オリンピックに向け地方では実感のない好景気が維持されている状況だと感じておりますが、その後の経済環境が大きく変わること今から予測されております。

第15回経営研究集会は「五輪明けにくるケタ違いの時代。あなたの未来の選択は？」をスローガンに、自分達で切り開いていく未来の経営について3つの開催目的を掲げ学び合います。

一つ目は、日本の人口減少時代に中小企業の経営の現状を再確認し、私たちにも対応できる経営手法、今後の課題を見つけて出す機会とします。二つ目は、働き方改革時代に、中小企業として自社の就業規則、採用方法や社内教育などを見直し、人を活かすための組織づくりを考える機会とします。三つ目は、IT、AI時代に、止めることのできない地域経済縮小に対して事業継承や地域内外マーケット戦略を考え、未来に向けたビジネスモデルの可能性を考える機会とします。

の可能性を考える機会とします。

基調講演では、ファインドスターグループ代表の内藤真一郎氏より、人を大切にする働きやすい環境づくり、優秀な社員をグループの社長にする仕組みなど従来の概念にとらわれない企業家として「経営者人材と新規事業の創り方」をテーマに講演いただきます。

第1分科会では、組織づくりをテーマに、宮城同友会会員企業の仙台四方よし企業大賞を受賞した(株)サイコーの齋藤社長よりご報告いただきます。第2分科会では、次年度発足予定の青年部会を中心に事業承継をテーマに、地元で活躍する若手経営者(株)ナイガイ米本社長よりご報告いただく予定です。

私たちが未来に向け夢と希望を持ち、一人一人が地域で活躍できる魅力ある企業をつくることで、2018年度の山形県中小企業家同友会のスローガン『人を生かす経営』の総合実践で地域と日本経済の発展に貢献しよう』を実現できると思います。先行き不透明な時代こそ、地域に元気の源をつくるのはそれぞれの熱い志。そして、みんなで楽しく、面白いことを創造し次世代へ明るい未来を継承しましょう。

第46回青年経営者全国交流会 in 沖縄

チム バンコク シンリョウ ユインチュ
肝高く 万国津梁を担う結人たれ! ～まくとっそーけー、なんくるないさ～

2018年 **11月29日** (木) ～ **30日** (金)
13時30分開会 12時00分閉会

参加費 **21,000円**
(宿泊・交通費別)

会場

- ロワジールホテル&スパタワー那覇(全体会、分科会、懇親会)
- パシフィックホテル沖縄(分科会)
- 沖縄産業支援センター他(分科会)

申込締切 11月14日(水)

※11月15日(木)以降のキャンセルは、参加費・オプションツアー代金の全額をご負担いただきます。

スケジュール

1日目	2日目
12:30 受付開始(各分科会会場)	9:00 全体会開始
13:30 分科会開始	分科会報告
18:00 分科会終了、休憩・会場移動	9:35 特別報告
18:45 懇親会開始	10:15 記念講演
20:30 懇親会終了・1日目終了	11:35 まとめ
21:00 交流の広場開始	12:00 閉会～オプションツアー～
22:30 交流の広場終了	

参加申し込み、お問い合わせは、山形同友会事務局までご連絡ください。

10月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

山形支部

会社倒産危機から継続実践で黒字企業へ ～同友会での学びを実践するとは～

2018.10.18(木) 18:30～21:00

場所: 山形ビッグウイング 研修室
山形市平久保100 ☎023-635-3100

報告者: スマイルモーターズ(株) 代表取締役 白澤長年氏(宮城同友会)

自他ともに認める業界のしくじり先生。2010年に創業しすぐ東日本大震災を経験。震災後、計画なく、強みも分からないまま、出来る(そうな)仕事は何でもする姿勢で取り組むが、付加価値のない仕事の増加、長時間労働と低賃金体制などいくつかの間にかブラック企業へと変身していました。

自己流での経営に限界を感じ同友会の経営指針を創る会を受講。受講をきっかけに「何でもする」から「強みを生かした得意なことに集中」へ仕事を方向転換し黒字経営に回復。また、同友会の企業変革支援プログラムを社内導入し、経営課題の明確化・改善に向け社員全員で取り組んでいます。

同友会での学びを愚直に実践し、倒産危機から黒字企業へ導いた白澤氏の実践報告です。白澤氏の報告から、自社での明日からの実践について考え合ひましょう。他支部会員、ゲストの方も大歓迎です。ぜひ、お誘いあわせの上ご参加ください。

詳細は別途ご案内致します。

寒河江支部

2018.10.29(月) 19:00～21:00

場所: 寒河江市技術交流プラザ 第2研修室
寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者: 寒河江物流(株) 代表取締役社長 後藤智樹氏

詳細は別途ご案内致します。

さくらんぼ支部

2018.10.24(水) 18:30～21:00

場所: まなびあテラス 講座室
東根市中央南1-7-3 ☎0237-53-0223

報告者: (株)ナコン 代表取締役 武田由香理氏

詳細は別途ご案内致します。

置賜支部

現状のままで未来を創っていただけますか? ～豊界のシルク・ドゥ・ソレイユを目指して～

2018.10.29(月) 18:30～21:00

場所: アクティー米沢 第2会議室
米沢市西大通1丁目5-16

報告者: (有)鏡豊店 代表取締役 鏡芳昭氏

詳細は別途ご案内致します。

庄内支部

専業主婦から経営者に! 社員と共に経営理念の実践で未来へつなぐ

2018.10.25(木) 18:30～21:00

場所: 鶴岡市総合保健福祉センター「にこ♥ふる」
鶴岡市泉町5-30 ☎0235-25-2731

報告者: (有)長門屋 代表取締役 笹林陽子氏

創業44年の長門屋で生まれ育ったものの専業主婦として過ごしていたある日、突然経営に携わることに。不安を募らせた社員からは「この先、どうなるんですか? どうしていくのか?」と言われても何もできなかった。そんな時、同友会に入会し経営指針をつくる会に参加。修了生・同期との関わりの中で経営者の役割と責任を自覚し、経営指針を作成。完成した経営理念をもとに社員と会社のあるべき姿を話し合い、「仏様とお客様の橋渡し」という思いを込めた新たなシンボルマークもできました。また、その周辺にある心を大切にしたいと、和の文化講座や和の文化をたのしむ会を開催。社員と経営理念を共有し、実践に取り組む笹林氏の報告です。お誘い合わせの上、ご参加ください。

詳細は別途ご案内致します。

新庄最上支部

働き方改革と労働基準監督署(仮題)

2018.10.22(月) 18:30～21:00

場所: 新庄市民プラザ 第2・3研修室
新庄市大手町1-60 ☎0233-22-4200

報告者: 社会保険労務士法人ルート企画 代表社員 菊地仁士氏

詳細は別途ご案内致します。

第5回理事会報告

◆日時:2018年9月12日(水)午後3時~午後5時 ◆会場:山形県産業創造支援センター ◆議長:齋藤専務理事
◆出席者:(敬称略)菅原、齋藤、越前屋、小川、赤塚、齊加、阿部(秀)、阿部(敦)、板垣、佐藤(淳)、志田、松岡、笹林、事務局 矢作、後藤、芳賀

■開会挨拶

菅原代表理事が、プレジデントに共同求人、インターンシップの取り組み企業として(株)サンックスが掲載されていることに触れ、「事務局にもあるのでぜひご覧になってほしい」と語り、また鋤柄相談役の新刊『経営者を叱る』についても紹介しました。

■学習会

●報告者:赤塚治美氏

赤塚氏から全国、県内における美容業の現状と傾向、自社の取り組みについて報告がありました。

次回報告者:小川大輔氏

■報告事項

1)2018組織強化・会員増強全国交流会の報告

菅原代表理事が「2019年5万名会員達成を目指してという趣旨で、愛知同友会の加藤氏から『例会で本当の経営課題を見つけられていますか』という、山形の役員研修会にも通じる問題提起があった。例会だけの課題解決は難しく、例会では経営課題を発見し、委員会につないでいくという流れが必要という話になった。役員が実践し『同友会で経営がよくなった』と語ることで真の増強で、それを熱く語ることで重要」と報告しました。

2)2018北海道東北ブロック支部長・地区長交流会の報告

阿部(秀)理事が、「9月6,7日に青森で開かれ、参加者は8名。八戸支部の小グループ活動の報告を聞き、顔の見える仕組みづくりができていたと感じた。山形支部もそれが課題であり、いろいろな仕組みづくりを通じて会員の居場所づくりが必要だと考えた。また、支部長の役割はしっかりした企業づくりで『同友会で自社がよくなった』と語れる支部長になること。影響力を与えられれば増強につながるという印象を持った。しっかり同友会の学びを実践し、企業を良くし、語っていききたい」と報告しました。

3)中同協・女性部連絡会の報告

赤塚理事が「男女共同参画の広がり、社会をよくしようという動きの中で、女性部の持つ生活者の視点を生かして各県で頑張っている様子が発表された。女性はいくつもの役割を持っている方が多く、日常生活から生まれる経営課題に気づきやすい。そういうところを生かして各同友会に影響を及ぼしていこうという宣言があった。女性会員の比率では全国平均が11.8%、山形が9.6%、女性役員は全国で10%、山形は7.4%。女性会員数は国の指標に基づき30%、山形の役員数はまず10%をめざしていきたい。そのための女性リーダーの育成に努めていきたい」と報告しました。

4)各支部・委員会・部会よりの報告

支部長、委員長、部会長より8月の活動報告と9月の予定について報告がありました。

5)西日本豪雨災害の義援金について

矢作事務局長より振込や例会での募金で444,000円の協力をいただき、9月3日に中同協に送金したことが報告されました。

6)2018年度8月月次決算報告(矢作事務局長)

■承認事項(入・退会承認) 1名退会 9月12日現在 402名

■討議事項

議題1:役員研修会第1講のまとめ

加藤氏よりの「気づきマニア・同友会ごっこになっていないか」問題提起をうけての例会づくり、「経営指針の理念・方針・計画の

整合性とPDCAを社員と徹底的に行い、習慣づけられるまで覚悟を持って根気よく進めていく」という企業づくりについて学び、役員自らが実践し経営と同友会活動を両輪として「同友会で経営が良くなった」と語る役員をめざすことを確認しました。

議題2:第15回経営研究集会について

実行委員長の松岡理事より提案があり、下記のとおり承認されました。

・タイムスケジュール 受付13:00、開会13:30、基調講演(13:30~15:20)、分科会(15:30~18:15)、懇親会(18:30~20:00)

・基調講演は、「経営者人材と新規事業の創り方」と題して、ファイナンスグループ 代表 内藤真一郎氏が講演。

・二つの分科会を設け、第1分科会は組織づくりをテーマに(株)サイコー 代表取締役 齋藤孝志氏、第2分科会は事業承継をテーマに(株)ナイガイ 代表取締役 米本泰氏が報告者に決定。

・220名の参加目標と予算案が承認されました。

議題3:第49回中小企業問題全国研究集会参加目標について

参加目標を2名とすることが決まりました。

●日時:2月21日(木)13:00~22日(金)12:00

●メイン会場:ホテルニュー長崎

議題4:実態調査について

菅原代表理事より「山形同友会の会員企業の実態を掴み今後の活動に生かす」「山形同友会に調査活動の力を蓄積する」ことを目的に宮城同友会が石巻専修大学と行う「実態調査」に山形も取り組むことが提案され、承認されました。

■その他

1)今後の予定

第6回人を生かす経営全国交流会	9月13日(木)~14日(金)宮崎
中同協・経営労働委員会	9月14日(金)宮崎
中同協・社員教育委員会	9月14日(金)宮崎
中同協・共同求人委員会	9月14日(金)宮崎
中同協・役員研修会	9月20日(木)~21日徳島
4委員会合同例会	9月20日(木)山形テルサ
山形大学学内企業説明会	9月25日(火)山形大学
中同協 第2回幹事会	10月2日(火)東京
新入社員フォローアップ研修	10月4日(木)寒河江市技術交流プラザ
幹部社員研修 第2講	10月9日(火)山形ビッグウイング
合同企業説明会	10月11日(木)山形テルサ
女性部10周年記念の会	10月17日(水)ホテルメトロポリタン山形
求人に関する学習会	10月19日(金)ヤマコーホール
憲章・条例学習会	10月26日(金)山形県産業創造支援センター
役員研修会 第3講	10月30日(火)14:00 山形テルサ

2)第6回理事会日程

●日時:10月10日(水)午後3時~午後5時

●会場:山形ビッグウイング

■閉会挨拶(菅原代表理事)

阿部(秀)理事が「先日の交流会で5万名にむけて同友会の輪を広げよう」と約束をしてくれました。皆さんの企業づくり・地域づくりをしっかりと、広げていきましょう」と閉会挨拶を述べました。

会員変更

●(株)山形アスワン 取締役部長 大内 太氏
→部長 江口淳一氏(山形支部)

同友やまがた10月号 (2018年10月1日発行/通巻307号)



「知り合い、学び合い、援け合い」
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp



山形県中小企業家同友会

委員会だより

2018年度第6号 2018.10.1発行

山形県中小企業家同友会

山形市南館 3-26-26 スタジオアワン102号

TEL : 023-645-5500

HP : <http://yamagata.doyu.jp/>

【経営指針委員会】

経営指針委員会は『経営指針をつくる会』修了生の希望者と受講後3年未満の修了生で組織しております。これまでは経営指針をつくる会のプログラムや運営に偏った運営となっておりますが、今期のスローガンでもある『強くてしなやかな企業体質を目指す』の下に毎月第3金曜日17時より開催しております。

3月から『第23期経営指針をつくる会』がスタートし8月25日は発表会で幕を閉じました。第1講は『同友会らしい経営指針の確立～現状認識を深め、経営理念作成をめざして～』と題して宮城同友会副代表理事東洋産業株式会社の玄地氏の講話からスタート。第1講のグループ討論から受講生は自社の現状、何のために経営しているのかを考えるがなかなか言葉が出てこない。初日ともあり面食らった部分もあったと思うが、初日から迷いの中に入ったでしょう。『こんなに自分は自社のことを知らず立場だけだったのか…。そこまで深く考えないと会社経営はできないのか』などたくさん考えたつくる会1日目だったでしょう。2日目は現在思う経営理念を提出。しかし『想い』が入らない理念は理念にあらず、で第1講が終了する。受講生は先行き不安のまま次の講へ。

1か月後の第2講は宿題も多く苦勞したでしょう。中には自社を詳しく知らなければ作れないものも。ビジョンを考えるのも今までにないことなので戸惑いと10年後なんて考えられない、まずは目の前、というのが受講生の考えでしょう。しかし社員が将来を考えた時自分の将来像が描けない会社で一生懸命、労働するだろうか？自分だったらどうか？ここでも深く考えた受講生でした。

第3講は奥山先生による講義。思いと数字のバランス、どうやって売上・利益を上げていくのかを自社に照らし合わせ、自社の強み市場の現況を考え自社の計画に落とし込む。具体的にどこをどのように伸ばしていくのかを考えました。

第4講は社員共育委員長の阿部氏を迎え組織づくりの講話。組織図があり指示命令系統が明確になっているのか？自社の組織で足りない人材はいないのか？5年後、10年後将来の組織図は想像しているのか、人材は足りているのか、などを学びこれまでの作成具合をチェック。

第5講はプレ発表と代表理事菅原氏より『労使見解』をテーマに講義をいただき発表会に向けた仕上げ。どれだけ真剣に取り組むことが出来たのか中途半端に取り組めば会社を潰しかねない経営指針づくり。労使見解を深めながら深掘り・深掘り。

いよいよ発表会。それぞれ一生懸命作成したがまずはつくる会の課程は終了した。しかし委員会内での再提出もあり課題を残す第23期となった。

3年経過後の修了生のかかわりが少なく、来期はもう一度仕組みと組織の再編が必要と感じる。3年以内の修了生だけではアドバイスの中身がまだ薄い。修了生の参加が少ないため受講生による企業訪問、補講などがうまくできず、委員としても関わり方が薄かったと感じる。本来なら受講生側から積極的に補講や企業訪問を申し込んでいただき活性化したいが、近年は修了生側から声をかけないとなかなか動けないようだ。次回からはかかわりを持つために修了生全体で声掛けの仕組みを作りたい。つくる会に参加することは助言だけではない。自社に必ず役に立つことがあります。手引きも新しくなり自社の指針書づくりにも必ず役に立ちます。

指針修了生の皆さん、来期は最低1回作る会に参加してください。地域を担う中小企業を増やすために。